

## 未就職新卒者の支援策実施を求める意見書

平成 21 年度大学等卒業予定者の就職内定率は、今年 2 月 1 日時点で 80%となり、前年同期比 6.3%減で比較できるデータがある 2000 年以降過去最低となった。社会人として第一歩を踏み出す時に職業につけないということは、日本の将来を担うべき若者の人生にとって厳しい問題であり、経済・社会の活力低下という点から見ても大変憂慮すべき事態である。

こうした中で、大企業を中心にした「新卒優先採用」の雇用慣行が卒業後の就職活動を困難にするため、就職活動に有利な「新卒」の立場を続けるためにあえて留年する「希望留年者」を生み出している。今春、就職未定の新卒者は大学・高校卒などで約 20 万人とも推計されているが、この推計には希望留年者は含まれていないため、“未就職新卒者”は実質的に 20 万人以上に上るとみられる。

また、景気低迷が続く中で大企業の採用が落ち込んでいるにもかかわらず、学生は大企業志向が高く、一方で、中小企業は採用意欲が高いにもかかわらず人材が不足しているといった雇用のミスマッチ（不適合）解消も喫緊の課題と言える。

若者の厳しい雇用情勢に対応するため、速やかに国を挙げて雇用確保のための成長戦略を初め、経済政策、雇用支援策など全面的に手を打つべきである。特に、未就職新卒者の支援策を早急に実施するよう、政府に対して以下の項目を強く要請する。

### 記

- 1 大企業を中心とした「新卒優先採用」という雇用慣行や就職活動の早期化を見直し、卒業後 3 年間は『新卒』扱いにするなど、企業、大学の間で新しいルールを策定すること。
- 2 大企業志向を強める学生と人材不足の中小企業を結びつけるための情報提供を行う「ドリーム・マッチ プロジェクト」の周知に努め、雇用のミスマッチを解消すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 22 年 6 月 23 日

鳥取市議会議長 中 島 規 夫

内閣総理大臣  
厚生労働大臣 様  
文部科学大臣  
経済産業大臣